

草勢強く、うどんこ病に強い、きめ細やかな粉質で食味良く、
貯蔵輸送性が高い、ハート型の大果種

ケン ト

特性と栽培方法



第1図 標準作型

| 地域 | 月 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|----------------------------|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 九州 (西南暖地) | | ○ | ♀ | ● | ○ | | | | | | | | |
| | | ○ | ♀ | ● | ○ | | | | | | | | |
| 関西 西海 東 関東 平坦地 | | | ○ | ♀ | ● | ○ | | | | | | | |
| | | | ○ | ♀ | ● | ○ | | | | | | | |
| 高冷地 東北 北海道 | | | | | ○ | ♀ | ● | ○ | | | | | |
| | | | | | ○ | ♀ | ● | ○ | | | | | |

○播種 ♀定植 ●交配 ○収穫

公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1 TEL.047-387-3827 FAX.047-386-1455

ケント

<特性と栽培方法>

育成経過

従来の黒皮へん平型品種とは区別性のある、加工用・業務用カット販売等にも利用しやすい大型・豊産性・高品質を目標にして育成した品種で、1993年に命名発表した。

育成素材としては、栃木県在来種から選抜した大型できめの細かな強粉質の系統と、えびす×みやこの固定系を使い、育成した。

品種特性

○果実はハート型の大果（2.5～3.5kg）で、貯蔵輸送性が高い。

○果皮は黒緑色で、斑・ストライプは無く滑らかでつやがある。

○果肉は黄色で厚く、きめの細かな粉質である。

○草勢は極めて強く、大葉で葉柄・節間は長く、茎は太い。

○うどんこ病に強く、生育は後半までおう盛で2番果の品質もよい。

○吸肥力が強いので元肥は少なめにし、追肥で調節する。

○低節位に着果させると果形が崩れ肥大も悪いので、品種特性を生かすには20節前後に1果着果させて大玉にする。

○収穫適期は開花後50～55日である。

栽培の要点

■**播種** 発芽床は過湿にならないように注意する。覆土は1cmくらいで、強めに鎮圧する。発芽適温は25～28℃、発芽したら20℃とし、翌日さらに15℃にする。（第2図参照）

■**育苗・定植** 播種後7～8日目にポット（12cm）に鉢上げする。育苗床はあらかじめ用意し、散水して床温を20℃くらいに上げておく。2～3日で活着したら地温は夜10～12℃、気温は昼18～20℃、夜8～10℃を目標に管理する。

育苗中の高温多湿は雌花の着生を少なくし苗の質を悪くするので、上記のような低温で管理し、灌水も控え目にして硬い苗を作る。育苗日数は30日前後がよい。

定植は、深さ20cmの地温が最低15～18℃に上昇するのを待って行う。

■**標準施肥量**（成分量kg/10a）

| | |
|------|---------|
| N | 8～12kg |
| P | 15～20kg |
| K | 10～15kg |
| Ca | 50～60kg |
| 完熟堆肥 | 2t |

吸肥力が強く、草勢が強いので、元肥はやや少なめにし、1番果の着果を確認したところで草勢を見ながら追肥を施すようにする。

■**栽植本数** 大葉で葉柄・節間が長いので、下記を基準とする。（10aあたり）

| | | | |
|-------|--------|--------|------|
| 1本仕立て | 畦間3.0m | 株間45cm | 740株 |
| 2本仕立て | 畦間3.0m | 株間90cm | 370株 |

■**整枝** 側枝は初期から強く発生し過繁茂になりやすいので、1番果が着果するまではていねいに随時摘除する。着果後は放任でよい。

■**着果** 1番果は1蔓1果とする。低節位に着けると大きくなり特性が生かされないので、草勢の強い株でも18～20節に着果させる。

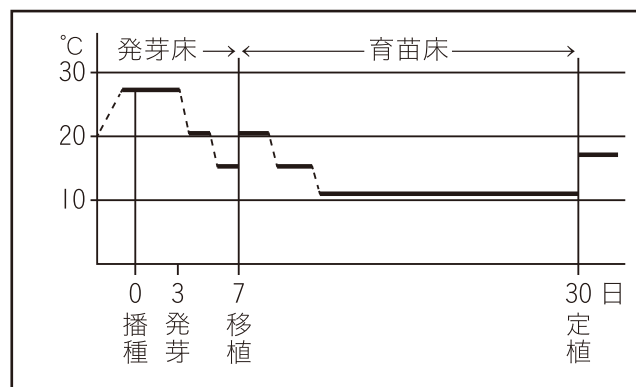
草勢が生育後半まで衰えないので、2番果以降も果形は良く揃い、粗放栽培でも特性を発揮する。

■**収穫** 栽培時期によって異なるが、開花後50日が標準で、早い栽培では55日は必要である。また、過熟になっても品質の低下は少ない。

収穫後の日持ちが良く、貯蔵輸送性に富む。

■**病害虫対策** うどんこ病に強い。従来品種と比べて発病時期が遅く病状も軽いので、通常1番果の収穫時期まで防除の必要はないが、病状が進み被害が予想されたり、2番果まで収穫する場合には、防除が必要となる。しかし、うどんこ病に対する防除回数は、従来品種に比べて半減できる。

えき病やアブラムシ等の病害虫の予防・防除は、他品種と同様の対応が必要である。



第2図 発芽床と育苗床の床温管理（夜間最低床温）